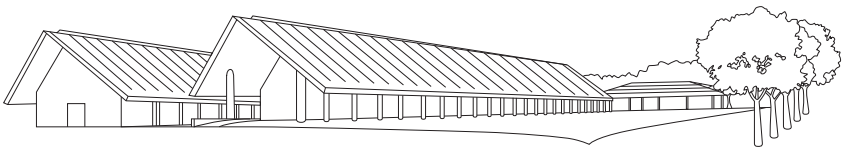
2024summer

news release

佐川美術館季刊誌

うつろひ VOL.105

リリースのおしらせ



佐川美術館友の会会員の方を対象に
年４回季刊誌を発行しており、
展覧会のみどころや耳より情報をお知らせしています。
7/1 発行の 105 号では、
『 髙山辰雄展 』を特集します。
耳寄り情報満載のその他コーナーもお見逃しなく！

目次

企画展　髙山辰雄 展		1－4
教えてセンパイ！	PICK UP	5
コレクション展　佐藤忠良　彫刻家のアトリエ	PICK UP	6
コレクション展　平山郁夫　平山郁夫の色彩		7
コレクション展　樂直入　茶陶の美		8
深#建築 LABO　茶室大特集		9–10
フジイさんが行く！ SHIGART		11
【告知】イベント／次回展		12–14
今年度美学のお知らせ／アンケート		裏表紙

次のページで
ちょっとだけ紹介！

年会費 3,000 円
でオトク！

友の会会員
募集中

詳しくは
コチラ

友の会会員の方には、季刊誌を
ご自宅までお届けします。
その他にも特典がいろいろ！
詳しくは美術館公式 HP 内、
友の会ページをご覧ください。

Join the Friends of the Museum

教えて センパイ!

センパイ！
展覧会の作り方
について
教えてください！

今回のセンパイ 井上さん

新人学芸員 栗田さん

高山辰雄展の
サブ担当になった栗田さん。
展覧会の出来上がりを間近で見て
ギモンがわいてきたようです。

展覧会ができるまで

EXHIBITION PLANNING

高山辰雄展の
大まかな流れを
時系列に沿って
見てみよう！

- **2年前 企画立案**
  どんな展覧会をするか考える
- **1年前 出品作品決定**
  大まかな展示プランを作成する
- **半年前まで 借用依頼**
- **半年前から 広報活動**
  チラシ・ポスターの制作
  ・プレスリリース
  ・HPでの情報公開
  ・駅や電車での広告
  ・SNSでの発信
- **3か月前 展示準備**
  印刷会社と共にチラシのデザインを考えます。より展覧会の魅力が伝わるように修正をしていきます。
- **3週間前 輸送**
- **1週間前 展示**
  完成した解説文や挨拶文はパネルにして、作品を展示した後に一枚ずつピンで打ち付けます。
- **展覧会スタート**

ギモン1 作品の借用依頼はどうやってするの？

出品したい作品が決定したら所蔵先に貸出を依頼します。所蔵先に直接挨拶に出向き、企画書を使って展覧会の内容を詳しく説明します。内諾を得ると、正式な依頼書やファシリティレポート※といった必要書類の準備を進めます。これらを所蔵先に提出し、ようやく借用の許可がもらえるのです。

※建物構造や温湿度管理、警備体制など館に関する詳細な情報をまとめた施設概要報告書。

ギモン2 展示準備で用意するものとは？

展示プラン（図面）を確定させるために、施工会社と相談しながら、作品の位置や造作壁、壁紙を決めていきます。作品の魅力を引き出すだけでなく、お客様のスムーズな動線確保も考慮しなければいけないため、ここが学芸員の腕の見せどころです。他にも挨拶文や作品解説も書き、パネルを作成します。

ギモン3 輸送って何をするの？

借用先が全て決定すると作品集荷のスケジュールを決めていきます。集荷は学芸員と美術品の取り扱い知識がある美術輸送専門スタッフで行います。借用先では所蔵者とのダブルチェックのもと作品のコンディションなど細部にわたり状態を確認し、展示や輸送などの取り扱いの注意点を記録する調書を取り、梱包してトラックに積み込みます。大事な作品を預かる緊張感ある作業です。

どの仕事も初めての経験で、日々学びの連続でした。準備してきたことをこうしてみなさまにご覧いただくことができてとても嬉しいです。

創作心をゆらす出会い

戦後、佐藤忠良は代々木上原と永福町の2か所のアトリエで作品を制作しました。環境の変化や転居に伴う人との出会いは、制作にどのような影響を及ぼしたのか。本展ではその変遷に着目して作品を展観します。今号では、代々木上原で制作された作品をご紹介します。

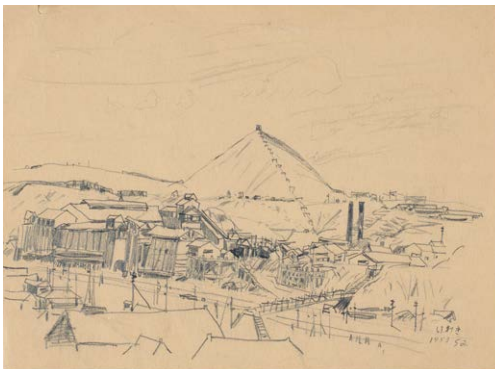
今号で Close-up

主な制作場所の変遷

1934 東京美術学校(現・東京藝術大学)入学。
1936 舟越保武ら7人と練馬区豊玉北の貸アトリエで共同生活を始める。
1940 結婚し世田谷区梅丘に転居。自宅では小品しか制作できず、大作は同区にある経堂の友人のアトリエで制作。
1944 召集され兵役につく。終戦後3年にわたりシベリアに抑留される。
1949 渋谷区代々木上原に新居を構える。51年、自宅に初めて自身のアトリエを建てる。
1959 杉並区永福町に転居。2011年、アトリエに付随する寝室で永眠。

人の生きる姿に輝きを見出す

佐藤はシベリア抑留時代に人間の在り方を問い直し、帰還後、市井の人々をモデルに制作します。1951年、アトリエを構えた代々木上原に程近い世田谷近辺の美術家による「白と黒の会」に加わり、同会の画家・朝倉摂(あさくらせつ)らと常磐の炭鉱や房総の漁村へスケッチ旅行に出掛けました。本作は常磐のスケッチで、画面中央には石炭を採掘する際に出た不要な岩石や砂を積み上げた「ズリ山」が描かれています。



《いわき》1953年

風土が育てた人間味を愛でる

《水》と《足なげる女》のモデルは、水運を利用して古くから良質な木材の産地として栄えた長野県・木曽の木材屋に生まれ育った女性です。彼女について佐藤は「素朴で明るい人で、気取らない奔放なポーズが次から次と出る※1」と語っています。相撲をとると佐藤や石膏屋さん※2が負けるほどだったという、アトリエでの和気あいあいとしたエピソードも残されており、作品からは自然豊かな地で幼少期より育まれたモデルの活発な人柄や、溢れ出る生命力が感じられます。

※1「作品集にそえて」『彫刻・佐藤忠良 1949-1971』現代彫刻センター
※2 ブロンズ像制作のため粘土像から石膏型を取る職人

《水》1955年

Information

佐藤忠良
彫刻家のアトリエ

会期：開催中～12月8日(日)

Pick up

芸術家同士の交流 高山辰雄と佐藤忠良

『高山辰雄展』でご紹介する画家・高山辰雄は、学生時代に同郷の彫刻家・朝倉文夫のアトリエに通っていました。佐藤は東京美術学校で朝倉に学んでおり、二人は朝倉のアトリエで出会います。その後も交流は続き、当館で開催された卒寿(そつじゅ)記念展『佐藤忠良70年の歩み・アトリエの中から』(2002年)では、高山が佐藤の彫刻について「全く現代を感じられ それは又全く傳統(でんとう)も感じさせてくれる 作品を頭に刻み込んでくれる生命力がある」と言葉を寄せています。本展では、高山直筆の原稿を初公開します。

《足なげる女》1957年